

SUSTAINABILITY REPORT 2025



本 社：〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル
東京本社：〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9番12号 北品川ONビル
発 行：コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会
(事務局 TEL:078-261-6223 FAX:078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています。



印刷に関する
配慮
この印刷製品は、
環境に配慮した
資材と工場で製造
されています。



インクに関する
配慮
環境負荷の少ない
植物油インクを使
用しています。

<https://www.kobelcosys.co.jp/>

KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

実りある明日を、 とことんともに。

当社の存在意義(パーパス)をシンプルに表現したパーパスロゴ。

目の前の“一人ひとり”を表す青いラインと、その成長と挑戦をとことん支える当社を表す赤いラインが、“とことん” 組み合って、インフィニティ(無限大)を描き、どこまでも続く実りある未来を表しています。

当社らしさを表現するうえで多く登場する「と」という文字にアクセントをつけ、興味を持っていただく仕掛けになっています。

PURPOSE 存在意義(パーパス)

すべての人を大切に、
一歩先行く技術と つくりあげる力で、
一人ひとりの挑戦と成長を支え、
実りある明日を築きます。

企業理念詳細は
こちら



<https://www.kobelcosys.co.jp/company/philosophy.html>

VISION 長期経営ビジョン

Be a Trusted Partner

Trusted Partner

Trusted Supplier

Supplier

すべてのステークホルダーから
信頼され続けるパートナーとして

- 社会に貢献する会社
- とともに成長する会社
- 社員が誇りを持てる会社

当社は中期経営計画「for the Next Stage」において、
経済的価値(自社の利益獲得)と
社会的価値(社会課題の解決)の両立を図るべく
サステナビリティ経営を掲げています。
従来の長期経営ビジョンに加え、
当社の存在意義を明文化することで
社会的価値を具現化し、社内外に向けた
当社のブランドイメージ定着を目指していきます。

存在意義(パーパス)	01
目次	02
トップメッセージ	03
会社概要	04

価値創造プロセス

価値創造プロセス	05
----------	----

サステナビリティ経営への取り組み

社会的責任を果たすために	07
中期経営計画における取り組みとSDGs	08
サステナビリティ推進体制	09
存在意義(パーパス)の策定活動	10

環境

カーボンニュートラルを目指すお客様に 向けて	11
自社内の取り組み	12

社会

お客様との信頼関係	13
公正なパートナーシップ	14
人材育成の仕組み	16
社員との絆	19
社会貢献活動	20

ガバナンス

経営基盤	21
セキュリティ	23
品質マネジメント	24
内部統制	25
外部からの評価	26

電子ブック版は
こちら



<https://www.kobelcosys.co.jp/ebook/sus/2025/sus2025/>

ご意見・ご感想は
こちら



<https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/>

コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会
〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号シマブンビル10F
TEL:078-261-6223 FAX:078-261-7520

報告対象期間

2024年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に
記載しています。一部につきましては、対象期間
以前からの経緯やサステナビリティレポート発行時
直近(2025年)の事項についても記載しています。

編集方針

2010年から毎年発行してきた本レポートですが、
当初の「CSRレポート」を「サステナビリティレポ
ート」に改称して2回目となる今回は、当社の「サス
テナビリティ経営」をよりわかり易くお伝えするた
めに、構成やデザインを一新しました。皆様のご理
解が深まれば幸いです。

TOP MESSAGE

代表取締役社長 瀬川 文宏



私たちはいま、気候変動、人口動態の変化、技術革新、そして社会的価値観の多様化といった、かつてないスピードで変化する時代の真ただ中にいます。こうした環境下で企業に求められるのは、持続可能な社会の実現に向けた責任ある行動と、新たな価値創出への果敢な挑戦です。

当社は2024年より、新たな中期経営計画をスタートさせました。その中で私たちは、「ビジネスを変える」「社会を変える」「自分を変える」という3つの変革の柱を掲げ、経済・社会・人材という三位一体の価値創造を目指しています。

以下の3つの方針に取り組んでいきます。

1 「ビジネス」を変える（経済価値の創出）

2030年を見据えたビジネス変革を実現する。

1. 従来ビジネス領域での徹底した生産性向上により一定の成長を目指す
 - ・AIなど新技術を積極的に活用するとともにアセット化を進め、脱工数(※1)ビジネスを加速させる
2. 今後の成長に向けた投資を積極的に実施し、次なる事業を立ち上げる
 - ・お客様(特に神戸製鋼所)との共創案件を推進することで、「製造業に強いコベルコシステム」に磨きをかける
 - ・事業基盤への投資、株主、ビジネスパートナー様、社員への還元を行いながら、テクノロジーを中心とした新事業にチャレンジしていく

2 「社会」を変える（社会価値の創出）

ビジネスを通じて社会課題に取り組みながら、社会の一員としての責任を果たす。

- ・日々の業務や企業活動を通じて社会価値を創出する(「環境への配慮」「経済成長」「労働力不足」「公平性・多様性の確保」など)

3 「自分」を変える（人材価値の向上）

多様な価値観を持つ社員一人ひとりが能力を伸ばすことができる環境を提供する。

- ・自律的キャリア形成やさまざまなチャレンジを通じ、社員の市場価値向上と自己実現を支援する
- ・社員が誇りを持てる企業ブランドをつくりあげていく
- ・これらを通じて社員とのエンゲージメントを高める

※1 脱工数:工数ビジネスからの脱却。工数ビジネスとは、作業量に応じて費用を支払うもので、要員単価×所要月数で見積るビジネス。

加えて、2024年に私たちは私たちの存在意義(Our Purpose)を明確にし、すべてのステークホルダーを大切に、実りある明日をともに築いていくことにコミットしました。

「すべての人を大切に、一歩先行く技術とつくり上げる力で、一人ひとりの挑戦と成長を支え、実りある明日を築きます。」

本レポートでは、私たちのサステナビリティに関する考え方と具体的な取り組みの現状、そして未来への挑戦について、透明性をもってお伝えしています。私たちは、持続可能な社会と企業の双方の発展を目指し、今後も誠実に行動し続けます。引き続き、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

会社名称 コベルコシステム株式会社

創 立 1983年10月1日
(神戸コンピュータシステム株式会社として発足)

設 立 1987年7月1日(コベルコシステム株式会社に商号変更)

代 表 者 代表取締役社長 瀬川 文宏

株 主 日本アイ・ビー・エム株式会社……………51%
株式会社神戸製鋼所……………49%

資本金 4億円

社員数 1,890人
(2025年4月1日現在。関連会社580人を含む)

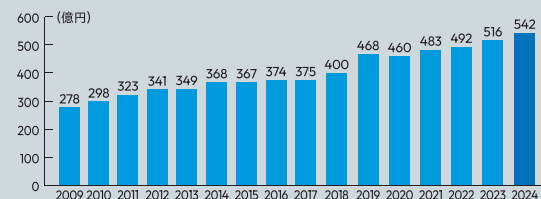
関連会社 コベルコソフトサービス株式会社

本 社 〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号

U R L <https://www.kobelcosys.co.jp/>

売上高 542億円(2024年度)

■売上高推移



■沿革

2024年 事業開発本部開設

2023年 第34回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞

2022年 クライアント事業部、ソリューション事業部開設
事業統括本部開設
キャリア開発センター開設

2020年 エンタープライズ開発本部開設
広島事業所開設
次世代育成支援対策推進法認定マーク(プラチナくるみん)取得

2019年 技術開発本部開設
スマートファクトリーセンター開設

2018年 デジタルイノベーションセンター開設

2017年 日本IBMグループ統一ISMS認証取得

2016年 IoTビジネスセンター開設

2014年 ISMS(情報セキュリティ・マネジメントシステム)永年登録表彰

2013年 「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰

2009年 次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)取得

2007年 全国企業品質賞にて大賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)

2006年 東京事業所を東京本社に改称
神戸データセンター開設

2005年 AMSセンター開設

2003年 ISMS認証取得

2002年 日本IBMの資本参加(51%)
(神戸製鋼/日本IBM IT戦略での包括的提携)
関係会社コベルコソフト関西とコベルコソフト東京を合併し、コベルコソフトサービス(株)を設立

2000年 プライバシーマーク(個人情報保護)の認定取得

1999年 ISO9001認証取得

1995年 関係会社コベルコソフト東京(株)創立

1994年 名古屋営業所開設
神戸製鋼所 情報エレクトロニクス部門、アルミ銅事業部と溶接棒事業部のシステム部門を統合、神戸製鋼所全部門のシステム化担当に

1993年 コベルコテレコム(株)と合併

1992年 神戸製鋼所 神鉄・加古川システム部門を統合

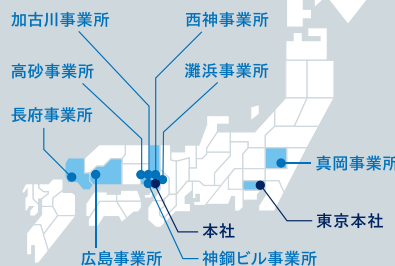
1991年 関係会社コベルコソフト神戸(株)創立
(1999年コベルコソフト関西(株)へ商号変更)

1988年 通産省システムインテグレータ認定

1987年 神戸製鋼所 本社とエンジニアリング事業部のシステム部門を統合、コベルコシステム(株)へ商号変更
東京事業所開設
コンピュータセンター開設

1983年 神戸コンピュータシステム(株)として創立(神戸製鋼所100%出資)

■事業所



■取得済の認証・認定・許可

■登録組織:ICT本部
事業開発本部 デジタルプラットフォームセンター
■登録範囲:インフラソリューションサービスの提供
■規格:JIS Q 27001:2023(ISO/IEC 27001:2022)
■登録番号:JSAI 003
■有効期限:2027年4月20日
■登録認証機関:日本規格協会ソリューションズ株式会社審査登録事業部

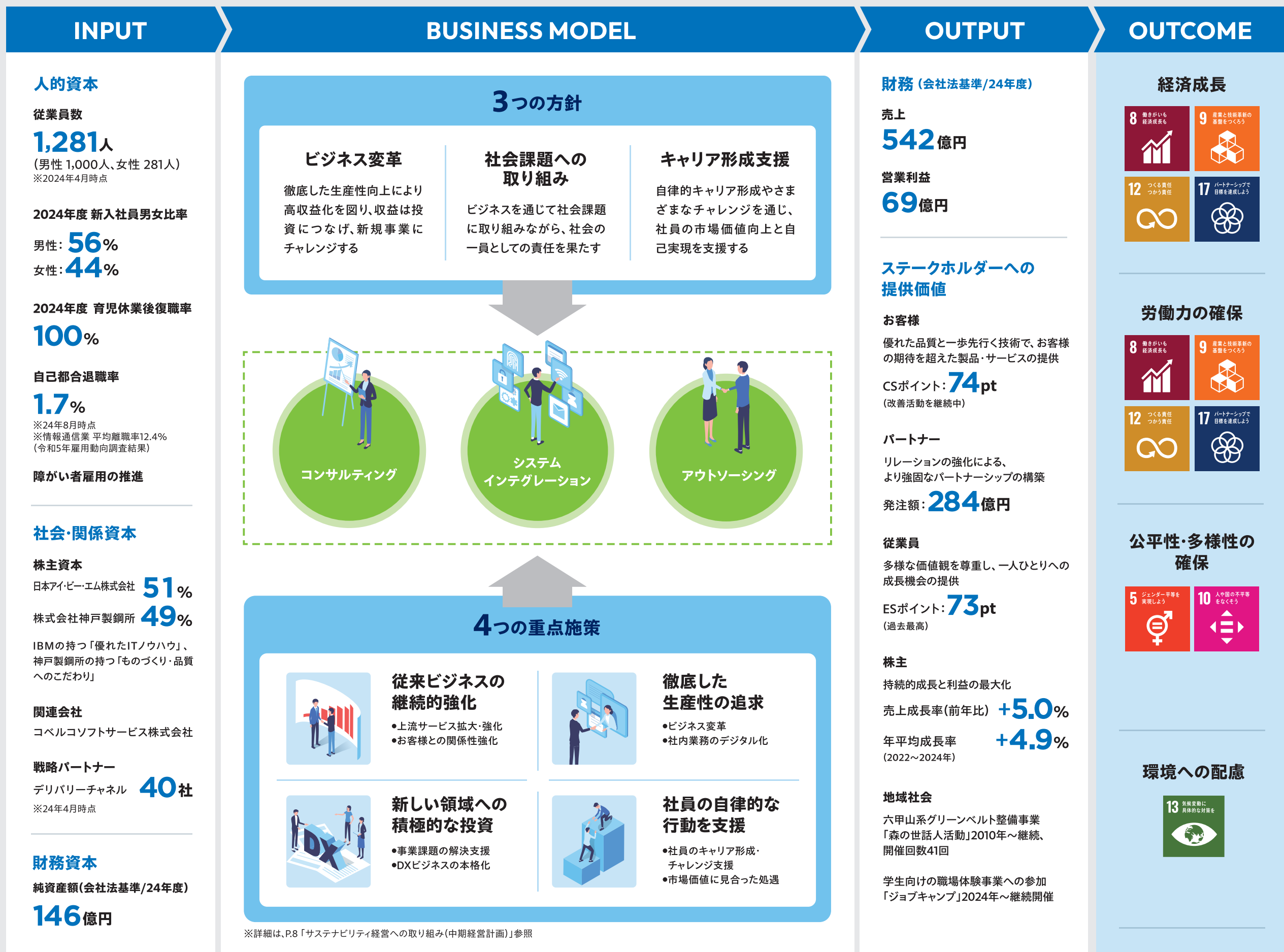
■認証範囲:情報システムに関するハードウェア製品、およびソフトウェア製品の提供
情報システムに関するビジネスコンサルティング、構築、運用、保守およびその他のサービスの提供
上記事業に関連する管理業務
■規格:ISO/IEC 27001:2013, JIS Q 27001:2014
■認証番号:4730906-5C
(この認証書は4730906の一部を構成するものです)
■有効期限:2025年10月31日
■登録認証機関:ビューローベリタスジャパン株式会社

■ISO9001 適用部署:ソリューション事業部
クライアント事業部エンタープライズ本部
クライアント事業部アウトソーシング本部 第4サービス部
クライアント事業部アウトソーシング本部 第5サービス部
ICT本部 営業本部
■登録活動範囲:製造業、流通業およびその他の産業向け顧客要求事項にもとづくソフトウェアの設計・開発・製造および付帯サービス(教育、移行支援および瑕疵対応)

兵庫県知事許可一般建設業(電気通信工事業)
[許可番号/(般-28)第114641号]



価値創造プロセス

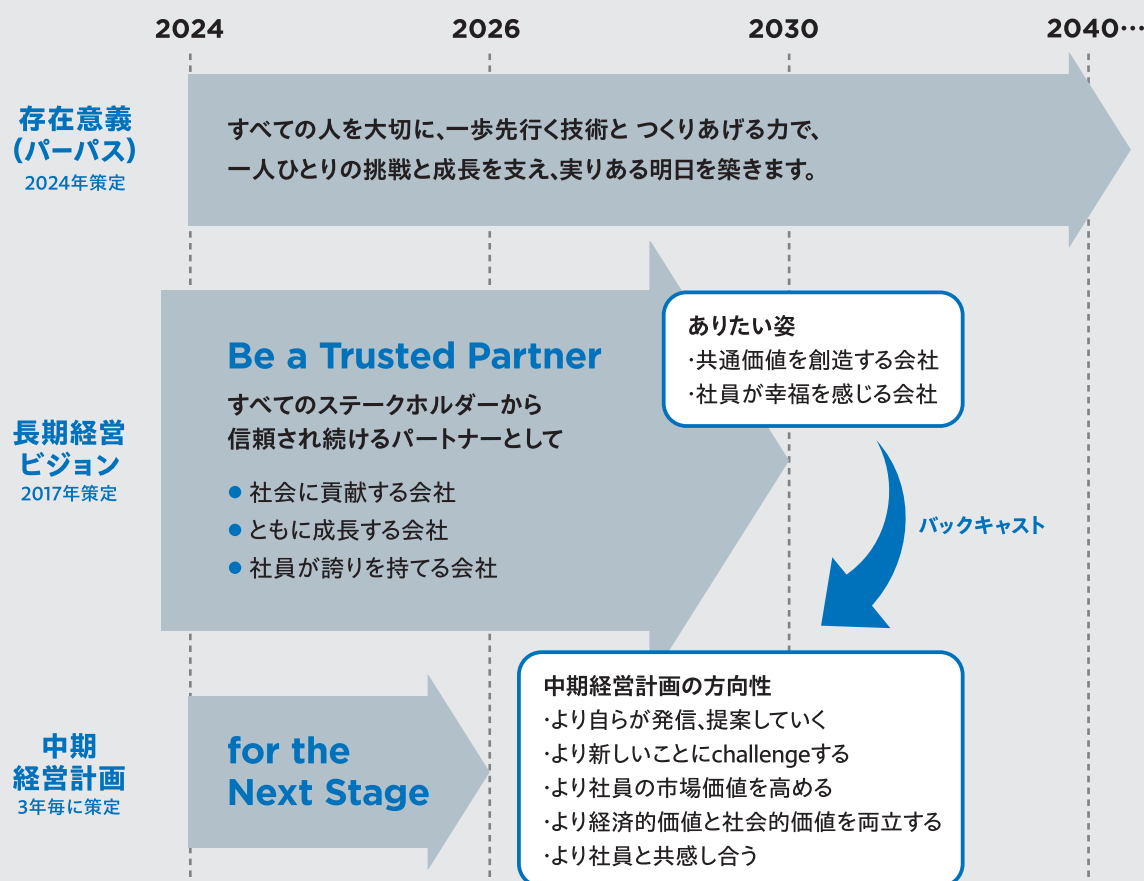
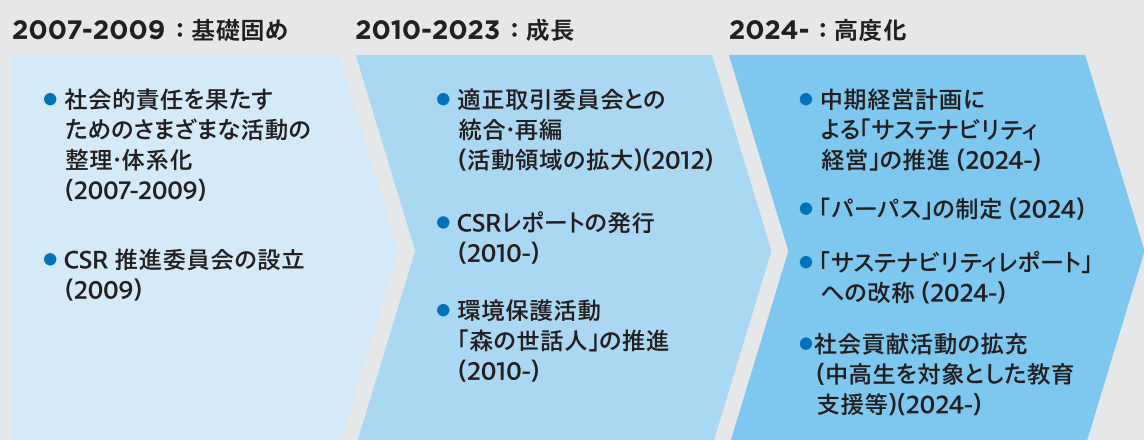


社会的責任を果たすために

当社では、設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化し、2009年にはCSR推進委員会を設立しました。2012年には適正取引に関する活動を行っていた「適正取引推進委員会」を統合再編し、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動を行っています。この委員会は、経営会議の諮問機関として、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出された委員で

構成されており、全社のCSRの設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担い、当社が社会的責任を果たしていくことを支えています。また、2024年からスタートした中期経営計画で掲げている「サステナビリティ経営」を受けて、社会や当社の持続的な発展に、より重点を置くべく検討を進めています。

■サステナビリティ経営への道程



中期経営計画における取り組みとSDGs

「ありたい姿」を実現するための取り組みを以下の「3つの方針」「4つの重点施策」にまとめました。この方針、施策が中期経営計画の骨子であり、中期経営計画を遂行することが社会課題の解決にもつながります。当社が貢献しうる社会課題は以下の通りであり、この枠組みが当社のサステナビリティ経営への取り組みとなります。

■サステナビリティ経営への取り組み

3つの方針

- 2030年を見据えたビジネス変革を実現する**
 - 従来ビジネス領域での徹底した生産性向上により高収益化と一定の成長を目指す
 - 得た収益を今後の成長に向けた投資につなげ、次なる事業を立ち上げる(経済価値の創出)
- ビジネスを通じて、社会課題に取り組みながら、社会の一員としての責任を果たす**
 - 日々の業務や企業活動を通じて社会価値を創出する
- 多様な価値観を持つ社員一人ひとりが能力を伸ばすことができる環境を提供する**
 - 自律的キャリア形成やさまざまなチャレンジを通じ社員の市場価値向上と自己実現を支援する
 - 社員の成長や貢献に対し、処遇や褒賞で報いていく
 - 社員が誇りを持てる企業ブランドをつくりあげていく

4つの重点施策

- 従来ビジネスの継続的強化**
 - ①上流サービス拡大・強化(コンサルやアーキテクト人材の育成強化、運用・保守領域からの上流支援への展開)
 - ②現在のお客様との関係性強化(運用・保守領域拡大、共創モデル推進)貢献する社会課題：経済成長 労働力の確保
- 徹底した生産性の追求**
 - ①システム受託型ビジネスからの変革
 - ②社内業務プロセスのデジタル化による業務効率化、生産性向上貢献する社会課題：環境への配慮 経済成長 労働力の確保
- 新しい領域への積極的な投資**
 - ①神戸製鋼所の事業課題解決支援強化
 - ②新規ソリューション(カーボンニュートラル・AIなど)の創出を加速し、DXビジネスを本格化貢献する社会課題：環境への配慮 経済成長 労働力の確保
- 社員の自律的な行動を支援**
 - ①社員のさまざまなチャレンジへの支援
 - ②キャリア形成支援・人材育成強化
 - ③市場価値に見合った処遇
 - ④企業認知度の向上とブランドイメージ定着貢献する社会課題：経済成長 公平性・多様性の確保

SDGs

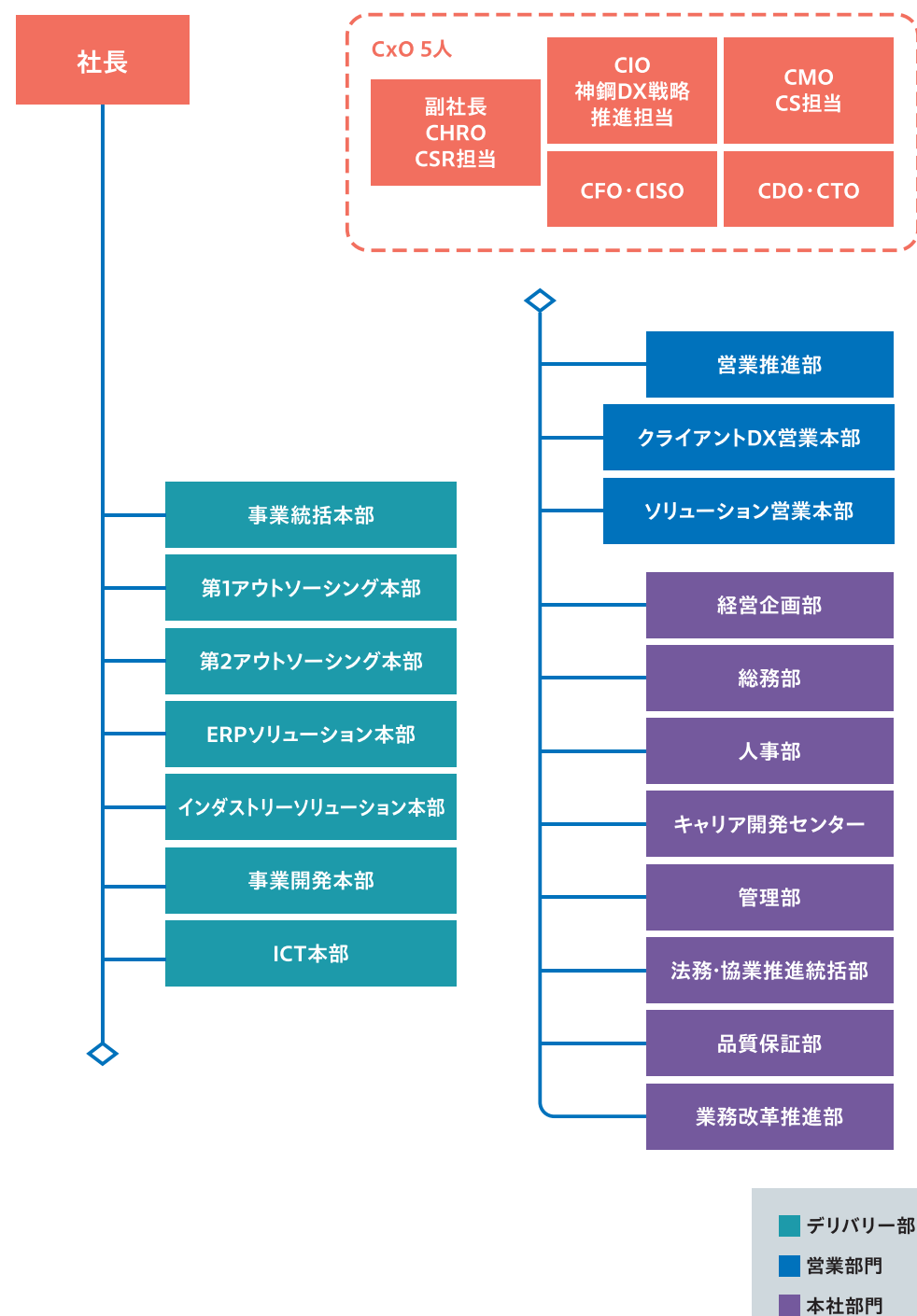


サステナビリティ推進体制

当社は、ESGに配慮した経営のもと、社会の重要課題に取り組み、事業活動(デジタル化、ガバナンス強化など)を通じてSDGs達成に貢献していくことが持続的な企業価値向上につながると考え、2024年から開始した中期経営計画の中で「サス

テナビリティ経営」への取り組みを掲げています。サステナビリティ経営の基本方針や推進活動については、以下の事業推進体制に加え、CSR推進委員会の中でも議論が行われ、社会課題の解決に向けた取り組みを進めています。

■事業推進体制 (2025年4月1日付)



※CSR推進委員会等、各種委員会の体制図については、P.21「経営基盤-ガバナンス推進体制」参照

存在意義(パーパス)の策定活動

中期経営計画で定めたサステナビリティ経営への取り組みを社内外に浸透させ、「存在意義」を発信することで当社のブランドイメージの定着につなげることを目指して、2024年4月に「存在意義明文化」タスクを開始しました。各本部から次世

代の中核を担う30代、40代を中心とした17名の社員がタスクメンバーとして集まり、6月から11月まで計6回のワークショップを通して活動し、タスクメンバーの深い想いが詰まったこだわり抜いた一文が完成しました。



自社のアイデンティティ (価値観、強みなど)を見出す

人 : 誠実、まじめ、責任感が強い
得意 : 製造業や基幹システムに強い
経営 : 安定した経営基盤がある
環境 : 社員を大切にする文化がある

ステークホルダー別の ビジョンを描く

お客様 : 他社事例の横展開、DX推進
社員 : 多様な働き方、学習の機会、自己実現
社会 : 教育支援、産学連携
株主 : 企業価値、安定性

社員アンケート/役員インタビュー の結果を分析する

お客様 : 自社の価値提供を通じて
お客様の喜びを実現する
社員 : なりたい自分へチャレンジできる時間と
業務量のバランスが確保できる

ビジョンを統合し、 存在意義を明文化する

手段 : すべての人を大切に、つくりあげる力で
対象 : 神戸の地から明日を
貢献 : 今日よりも豊かに

存在意義 Our Purpose

すべての人を大切に、
一歩先行く技術と つくりあげる力で、
一人ひとりの挑戦と成長を支え、
実りある明日を築きます。



カーボンニュートラルを目指すお客様に向けて

神戸製鋼所様への協力

当社の親会社の一つで最大規模のお客様でもある神戸製鋼所様は、現行の中期経営計画（2024年から2026年）においてカーボンニュートラル(CN)への挑戦を表明され、将来的に製造工程におけるCN実現を目指すべく、さまざまな取り組みを推進されています。

当社はシステム面でこれをサポートすべく、お客様の業務変革に応じた生産管理システムの改善提案・システム開発を担当しています。

KOBELCO

「e-SYOHSI」によるペーパーレス化への貢献

お客様のペーパーレスへの取り組みは脱炭素や環境負荷軽減につながります。基幹システムが日々出力する大量の紙書類を電子化することは、これに直接貢献するだけでなく、紙書類の物流に起因する温室効果ガス排出の抑制にもつながります。

当社はe-SYOHSIシリーズを、基幹システムと各種電子帳票システムを連携させるソリューションとして、2001年にリリースし、現在までにOEMも含めて約400社のお客様に導入しています。

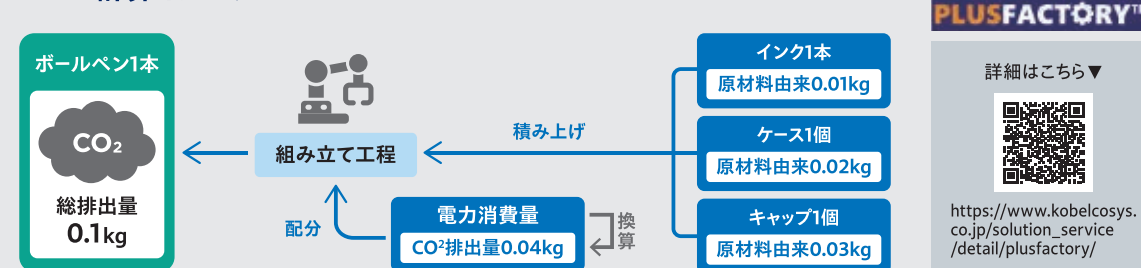


製品別カーボンフットプリント計算ソリューション「PLUSFACTORY CFP」の提供

当社は2007年から、ビジネスエンジニアリング社の製造業向け基幹業務パッケージ「mcframe」のビジネスに携わっており、長年培ったノウハウをもとに、mcframeの開発を効率化する独自のテンプレートを「PLUSFACTORY」としてブランド化し

ています。また、PLUSFACTORYではmcframeの周辺ソリューションとの連携テンプレートもあり、カーボンニュートラルを目指すお客様に向けては、製品単位でCO₂排出量が把握できる「PLUSFACTORY CFP」を提供しています。

■CFP計算イメージ 総排出量=Σ(活動量×排出原単位)+Σ(配分量)



自社内の取り組み

「森の世話人」活動

当社は、神戸に本拠を置く企業として、地元六甲山の自然の恵みを守り、育て、親しみ、そしてそれらを愉しむことを大切にしています。その一環として、2010年から六甲山系グリーンベルト整備事業の「森の世話人」活動を推進しています。この活動では、当社の社員、OB、関係者が六甲山の森づくりに貢献しています。活動に際しては、「NPO法人六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て、森林の保育や間伐、植林などを行っています。六甲山の森林は間伐などの管理が十分でないため、過密で林齢の高い森林が多く、CO₂吸収能が低い状態にあります。これを改善するため、森林の保育・間伐→主伐→新規植林・再植林→保育・間伐→主伐という循環型森林整備を長期的視点で継続し、CO₂吸収能を高めて温暖化防止に寄与しています。



▲第40回「森の世話人」活動（2024年11月9日実施）

2023年には、花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体に対し、その功績をたたえ、国民的運動としての緑化推進活動の模範として表彰する第34回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰の受賞者に、民間企業としては唯一当社が選ばれました。



▲活動風景



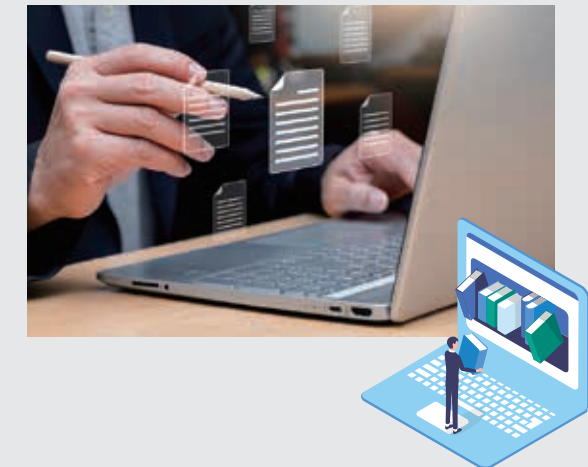
▲当社の自然保護活動イメージキャラクター Kocoroちゃん



▲第34回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰（2023年）

ペーパーレス化の推進

また、日常業務においてもペーパーレス化を推進し、会議資料の電子化やオンデマンド印刷の導入により、紙の使用量を削減しています。リモート勤務環境を整備し、在宅勤務制度を積極的に活用することで、通勤交通手段の利用を減らし、間接的にエネルギー使用量も削減しています。当社は、これらの活動を通じて、持続可能な未来の実現に貢献し、豊かな社会や環境を次世代に引き継ぐことを目指しています。



コベルコシステムのステークホルダー

当社はステークホルダーとのしっかりとした、地に足の着いたコミュニケーションを重視しています。これにより信頼関係を強固にし、持続可能な社会への貢献と持続的な企業価値の向上を目指します。



株主

日本IBM、神戸製鋼所のグループの一員として企業活動を推進する

社員

企業発展の原動力である社員一人ひとりが活力を高め、最大限のパフォーマンスを発揮できる職場を実現する

お客様

ITソリューション/サービスを通じてお客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

ビジネスパートナー様

ビジネスパートナー様と健全でWin-Winの関係を築く

行政

法令などを正しく理解・遵守し、行政との良好な関係を保つ

地域社会

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、企業市民として社会への貢献を確実に実行する

お客様との信頼関係

お客様から信頼されるパートナーになるために ～Be a Trusted Partner～

当社では「お客様満足度向上活動」を経営の支えとなる大切な取り組みと位置づけ、お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に必要とされる会社作りに取り組んでいます。



CSを支える各種の取り組み

■CS委員会

会社としてCSについて検討する場であるCS委員会を設置しています。メンバーはCS担当の役員であるCS委員長と、各部門の代表であるCS委員で構成され、社員のCS意識向上につなげるために社内プロセスや施策の変革に取り組んでいます。

■CS通信

社員のCS意識をリマインドする機会として、毎月1回、全社員向けにCSに関するメールニュースを発行しています。内容はCS委員が持ち回りで体験やエピソードを記したCSコラムがメインとなっており、全社員がCSを振り返るきっかけとしています。

■CS研修

社員のCS意識のレベルアップを目指して、CSに関するeラーニングを実施しています。教材はCSについての内容に加え、前年のCS調査の振り返りなどの内容で、全社員、全役員が受講しています。また、選抜社員によるCS集中討議会も開催しています。

■CSスローガン

スローガンは毎年100件前後が社員からエントリーされ、これらを社員投票により選定、表彰しています。

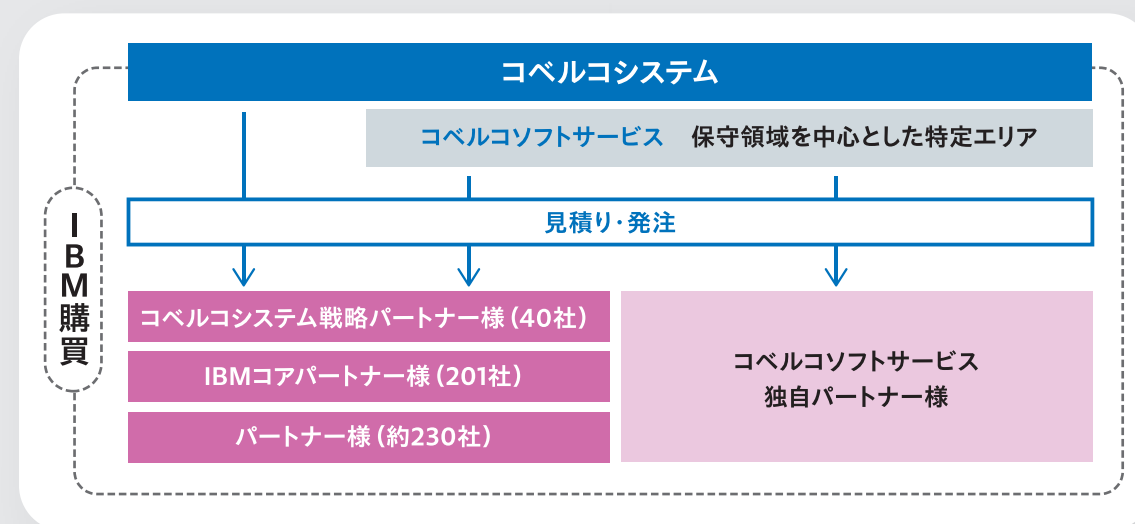


公正なパートナーシップ

より強固なパートナーシップの構築

当社では2016年1月から「コベルコシステム戦略パートナープログラム」を導入しています。このプログラムは、価格競争力を保ちつつ、品質の高いサービスをご提供いただけるパートナー様と戦略的パートナーシップを結ぶことで、お客様へさらに価値あるサービスを提供することが目的です。

戦略パートナー様には各社の強みや技術者情報などをご提供いただき、当社からは今後のビジネスを優先的にご紹介するなど情報連携を強化しています。それによって、より高いセキュリティ遵守、適正取引などの法令遵守の相互協力、また、見積りプロセスの簡素化や品質評価のフィードバックの実施など、相互にメリットをもたらす、より強固なパートナーシップを構築しています。



■当プログラム対象パートナー様のメリット

- ビジネスを優先的にご紹介
- 当社とのリレーション強化の場を提供(パートナー会など)
- CSA(見積りシステム)でのバイヤレス(IBM購買バイヤーを介さない)プロセスの実現により見積りプロセスの簡素化と発注までのリードタイム短縮
- 当社の購買部門との定期的な意見交換および双方のビジネス拡大に向けた取り組みを協業して実施
- 当社主催のセミナー/研修/勉強会への参画
- 品質評価(QCD)フィードバックの実施

適正取引の推進

当社ではビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会内に「適正取引部会」を設け、適正取引ガイド、eラーニングなどにより、具体的なガイドを社内に徹底する一方で、ビジネスパートナー様に対しても、必要に応じて情報発信やアンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。主な取り組みは、次の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

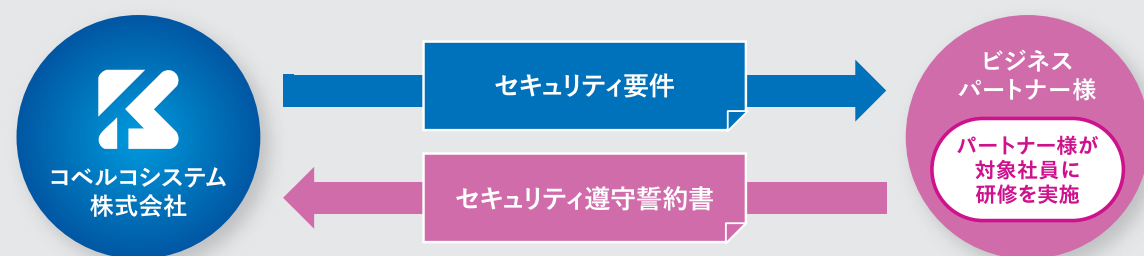
一体となったセキュリティ確保

当社はビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、当社の社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

当社は、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネスパートナー様に対し

ては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいています。2024年度のセキュリティ研修においても、対象者全員が十分な理解状況にあることを各社からの履修理解度報告で確認しています。

これにより、当社とビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティ確保につなげています。



パートナー会 (中期経営計画の発表)

当社では、毎年ビジネスパートナー様をお招きして、コベルコシステムパートナー会を開催しています。2024年はコロナ以降、久しぶりの対面開催となりました。2024年度が当社の中期経営計画の初年度となることから役員から方針・重点施策を発表させていただくとともに、ビジネスパートナー様との共創のお願いと当社ビジネスへのご支援の継続を依頼させていただきました。各社様もビジネスチャンスの拡大、交流の場として本パートナー会にご参加いただき、ご活用いただいています。



人材育成の仕組み

「互いを尊重し合いながらイキイキと働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現」を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、自らの専門性を磨き高め、柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任を持って誠実に対応できる人材

複線型プロフェッショナル職制度を基軸に ～コベルコシステム認定プロフェッションを目指して～

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。また、ハイ

レベル人材の育成・登用および各職種の目指すべき人材像として、KCP認定制度 (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) を設けています。

社員級	職位	役割区分 ^{※1}		職種						
		ライン系	専門職系	ライン	コンサル	セールス	プロジェクト	IT	経営スタッフ	事務
G1	主管	RA	RO	本部長 部(センター)長		KCP認定 (チーフ)	KCP認定 (シニア)	KCP認定 (エキスパート)		
G2	副主管	RB	R1	部(センター)長 グループ(室)長						
G3	専任	RC	R2	グループ(室)長						
G4	主任	RD	R3			SP試験				
G5	副主任		R4				スペシャリスト(SP)試験			
G6	先任									
G7	初級							アプリケーションマスター認定 (APM)		

※1 社員級G3～G1を対象に適用される、役割給を定めるための区分

教育・研修体系

「すべての質を高めよう」という狙いのもと、IT研修はもとより、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修や、経営課題解決に寄与するモノづくりや現場力の強化など経営戦略に即応した研修の

実施、スマートフォンでも学習できるeラーニングなど、効率よく利用できる環境を提供しています。今後もお客様に信頼される真のパートナーを目指して人材育成を強化します。

	階層別研修 ^{※2}	役割別研修 ^{※3}	プロフェッショナル研修	共通研修 (必須研修)	戦略研修	部門独自の研修
ベテラン	・管理職としての研修 ・ビジネスリーダーシップの開発	・部長研修 ・グループ長研修	・ヒューマンスキル リーダーシップ タイムマネジメント コーチング	・適正取引 ・人権啓発 ・情報セキュリティ ・CS	・コンサルティング力 ・モノづくり、現場力 ・財務・会計 ・グローバル	・各部門による
中堅	・実務リーダーとして 必要なリーダーシップの育成		・コンセプチュアル スキル 論理的思考 問題・課題解決 戦略	・自立的キャリア デザイン/ キャリア形成支援	・DX	
若手	・業務遂行能力の向上 ・問題解決力の向上	・アドバイザー研修	etc.	・メンタルヘルス		
新入社員	・一人前のプロフェッショナルの育成 ・社会人への意識改革 ・基本スキルの習得					

※2 各社員級(G7～G1)に求める必須の知識・スキル・マインドに関する育成・研修 ※3 当該の役割を担うに当たり、必須の知識・スキル・マインドに関する育成・研修

アーキテクト育成プログラム

昨今、生成AIなどの発展や多くのお客様がクラウド環境へシフトされているように、ITを取り巻く環境変化に伴い、当社に求められているのは、お客様のビジネス環境やニーズを理解し、課題の解決に向けて共創できる人材です。そのような背景から「コベルコシステムらしいアーキテクトの育成」を目指し、2024年から開始したのが「アーキテクト育成プログラム」です。

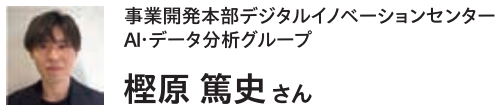
当プログラム参加者の声

一般的なアーキテクト向け研修だけでなく、今回のプログラム用に「クラウドブートキャンプ」（以下、BC）の実施、社内のアーキテクト有識者や他部門の方々と直接意見交換ができるコミュニティの企画、実施が良かったです。特にBCでは、基幹システムのクラウド移行やAI活用が本格化する中で、クラウドサービスを活用し、また有識者を頼りつつ積極的に提案することが重要という気付きを得られました。その学びを実践で活かし、お客様の今後のビジネスに貢献したいと考えています。

段階的な語学習得プログラム

社員のグローバルな活躍を支援できるよう、段階的に学びを深めることができる語学習得プログラムを希望者へ提供しています。STEP1として「AIを活用した英会話アプリ」、STEP2として「オンライン英会話」、STEP3では「グローバル研修」があり、受講者の語学スキルや、目指すべき姿に応じて受講プログラムを柔軟に選択することが可能です。

「グローバル研修」受講者の声



事業開発本部デジタルイノベーションセンター AI・データ分析グループ

梶原 篤史 さん

マレーシアで開催された本研修で、DXを推進する組織のリーダーに必要な考え方である、EAやアジャイルなどのフレームワークから経営戦略まで幅広い知識を学びました。今後VUCA時代では柔軟で適応力の高い組織である必要性が増すため、必要に応じ海外の方と協力することも求められると思います。よって、学習を継続すると同時に、他メンバーにこの研修で学んだことの重要性を伝え文化を変革することを通して、社会に価値を提供できる会社であり続けることに貢献していきます。

ここでアーキテクトとしての基礎技術のほか、構想策定に必要なグランドデザインやアーキテクチャー設計の実践演習を通じ、お客様に寄り添ったアーキテクチャーの設計やご提案、それを進める際の考え方やマインドを体得します。



▲集合研修風景

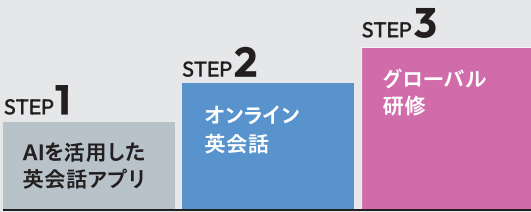
必要となる専門性



アーキテクト育成プログラムロードマップ



当取り組みを通じて今後もグローバルビジネスで活躍できる人材輩出の環境づくりを行っていきます。



「オンライン英会話研修」参加者の声



業務改革推進部 業務改革推進グループ

細川 恭司 さん

1回30分と気軽に受講でき負担感なく楽しく取り組めています。オンライン英会話自体が良い例ですが、我々のビジネス環境はITの発達により時間的・場所的制約が取り払われ、今後さらにグローバル化していくと思います。半面、どのように技術が発展しても直接的なコミュニケーションに勝るものはないですし、お客様との心通うコミュニケーションは当社の強みの1つです。言語が変わってもお客様と心通う会話ができたらなと今日もレッスンに励んでいます。

自律的キャリア形成

社員がイキイキと働き続けるためには、一人ひとりが自律的にキャリアをデザインし、成長を実感できるように支援をすることが大切だと考えています。これまでもキャリアに関する対話機会を定期的に設けてきましたが、2022年から全社員向けに「自律的キャリアデザイン研修」、ライン長向けに「キャリア形成支援研修」を新設し、より積極的なキャリア形成支援に取り組んでいます。その他、社員のキャリアに関するインタビュー記事(キャリアアカタログ)や、社内のキャリア・コンサルタント資格者との相談機会(キャリアサポート活動)などの情報提供・サポートも行っています。今後もアンケートなどで社員の思いを確認し、社員一人ひとりの成長と働き甲斐を実感できるよう支援を続けていきます。

DXビジネス推進人材育成プログラム

当社ならではのデジタル・トランスフォーメーションを目指して、2022年からスタートした「DXビジネス推進人材育成プログラム」も研修内容をブラッシュアップしながら、3年間で延べ400人以上の受講者を輩出してきました。これまで部門指名制であった募集方法を受講者自身が希望して参加する方式に変更したことで、受講者の自律性を高めつつ、研修メニューの評価と改善を行い有用性の高いプログラムへと成長しています。DXに欠かせないテクノロジーの教育に加え、DX案件をリードするDX推進リーダー

ロール	顧客接点人材				DXデリバリー人材			
	業務コンサル (1Tコンサル)	コーディネーター	DXアーキテクト	新たな役割のPM	DXアブローチ 人材	AI・データ サイエンティスト	セキュリティ スペシャリスト	先進IT スペシャリスト
超上流コンサル	○	△						
コミュニケーション	○	○	○	○				
顧客とのリレーションづくり	○	○		○				
DX全般(知識) 広く浅く	○	○	○	△	△	△	△	△
お客様業界動向・業務知識	○	△	△	△				
アーキテクチャーデザイン		△	○					
幅広いテクニカル知識			○			△	○	△
プロジェクトマネジメント	○	○	○	△	△			
デザイン思考	○	△	△	△	○			
UI/UXデザイン			△	△	○	△		△
アジャイル開発			△	△	○	△	△	△
AI活用力					△	○		
データサイエンス					△	○		
セキュリティに関する業界知識・テクニカル知識					△		○	
いずれかの専門性					△	△		○

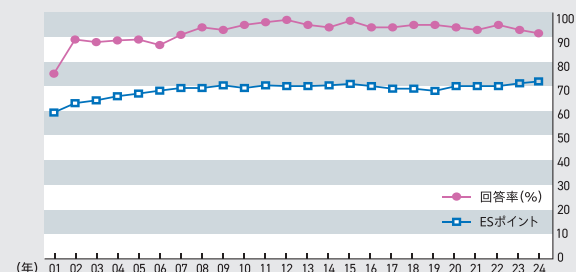
○必須:各ロールで必須受講 △推奨:各ロールで推奨受講

社員との絆

社員満足度調査

「社員満足 (ES) の向上がお客様満足 (CS) の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から年に1度、社員満足度調査を実施しています。全社員を対象に匿名で回答してもらうことで、社員の率直な意見を集め、課題の分析や改善策の立案を行っています。これまでの地道な取り組みの成果もあり、2024年の調査では過去最高スコアとなりました。今後も社員一人ひとりを取り巻く環境を

踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションをとっていきます。



KWC活動

「KOBELCO SYSTEMS Work-engagement Community (略称:KWC)」は、「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに、全社横断の自主活動を展開しています。在宅勤務が増える中でのコミュニケーション活性化や社員満足の向上などを課題に、ワークエンゲージメント向上をテーマに活動しています。昨年の活動の中で「将来のキャリアに漠然とした不安がある」「周囲に身近なロールモデルがない」という声が若手社員から上がったため、さまざまなロールや立場で活躍する社員をロールモデルとしてゲストに招き、キャリア形成について語ってもらう「キャリアカフェ」を開催

しました。2024年は「年の近い先輩社員」「育児と仕事の両立」「PM経験者」「社内認定資格保有者」といった社員にとって身近なテーマを設定し、4回にわたり実施。総勢300人超の社員が参加し、「先輩社員のキャリアに対する考えを知り刺激になった」「具体的なキャリアの歩みを知れて漠然としていた不安が和らいだ」という声が上がりました。今後も社員一人ひとりがイキイキ働くことのできる環境づくり、社内のワークエンゲージメント向上をサポートしていきます。



全社イベント「コベルコシステムハッピーデー」～家族とともに～

当社では、2008年から「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれている家族への感謝」をテーマとして家族参加型の全社イベントを開催しています。ここ数年はご家族や仲間同士で日程を自由に決めて楽しめるよう、テーマパークのチケットを各ご家庭に配布する形式をとっていましたが、2024年はチケット配布に加えて、社員が一堂に会し親睦を深めるとともに、一体感を育むことを目的としたイベント『2024 絆』も開催しました。在宅勤

務の浸透によりコミュニケーションのあり方が変化する中、対面ならではの親密な関係性作りを通して社員間の絆をより強固なものにすることを目指しました。イベントでは、当社がオフィシャルパートナーを務めるご縁で、コベルコ神戸スティーラーズのアンバサダーで元ラグビー日本代表の大畑大介氏らをお迎えし、社長の瀬川と「絆」をテーマに対談を行いました。その他、チーム対抗のゲームなどを通じて部署の垣根を超えた親睦を深める場を設けました。参加した社員からも「久しぶりに同期や先輩に会えて楽しかった」「顔を合わせて話をする大事さを再認識した」などの声が多く上がり、絆を深める有意義な時間となりました。



社内SNSの活用 ～社内コミュニケーションをアップデート～

当社ではビジネスチャットツールを導入しており、部門ごとに活用が進んでいました。社員同士の絆と一体感をテーマとした2024年には、社内コミュニケーションの効率化と部門間の連携強化を目的

として、全社横断のコミュニケーションワークスペースを新設しました。これにより部門横断でのコラボレーションやナレッジ共有がより活発となり、生産性の向上にもつながっています。

社会貢献活動

都立高校生のための職場体験(ジョブキャンプ)事業の参加

令和6年度東京都教育庁委託事業「都立高校生の職場体験(ジョブキャンプ)事業」に参画し、2024年7月23-24日の2日間、高校生に職場体験の場を提供しました。

東京本社在籍の本社スタッフが中心となり、学生と社会人の違い、生成AI体験、社員インタビューなどに加え、「コベルコシステムの知名度アップ策」について検討してもらうなどのプログラムを企画・実施しました。

参加した高校生からは「仕事って案外悪くないと感じた」「進路を考えるきっかけになった」といった、前向きな感想をいただきました。今後も継続して参加し、学びの機会を提供していく予定です。



プログラムの詳細はこちら
<https://jobcamp.metro.tokyo.lg.jp/>



次世代を担う人材育成に向けた企業講演の実施

2024年12月13日、神戸市立西神中学校にて、「これからの企業が求める人材像」をテーマに市内の企業5社とともに講演を行いました。約70人の中学生を前に、当社の採用担当者が、IT企業の視点から社会に求められる人材像について、メッセージを伝えました。働くことをただイメージしてもらうだけでなく、デジタル技術がもたらす未来への課題感にも触れながら、「IT業界が果たす役割」について理解を深めてもらう内容が生徒や先生に好評でした。

今後も次世代を担う子どもたちとの交流を大切に、講演などを行っていく予定です。



その他の社会貢献活動

■障がい者雇用への取り組み

以下の障がい者の雇用実績があります。

- 上肢障がい／下肢障がい／視覚障がい／心臓障がい／腎臓障がい／てんかん／精神障がい

2024年採用数: 2人

障がいの内容や程度に合わせて職場環境の改善を行っています。

障がい者採用情報の詳細はこちら

<https://www.kobelcosys.co.jp/recruit/disability/>



■スポーツ振興・文化芸術への協賛

下記の団体などに協賛しています。

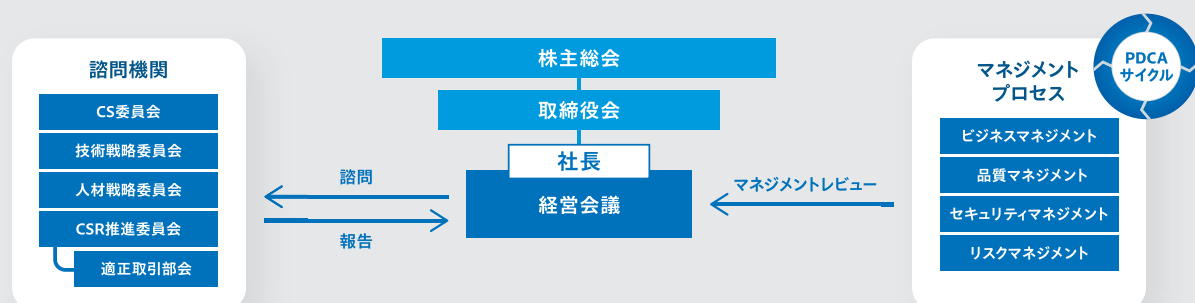
- NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)
- ジャパンラグビー リーグワン コベルコ神戸 スティーラーズオフィシャルサポーター
- 公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団
- 公益社団法人アンサンブル神戸
- 神戸ルミナリエ

経営基盤

ガバナンス推進体制

当社は、株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営されています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。当社は、米国に本社を置くIBMグループ

の一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守など、当社の内部統制環境が機能していることを保証するために、SOXテストやモニタリングを実施しています。



コンプライアンス推進体制

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。当社では、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を適用した「コベルシステム企業倫理規程」を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して適切に対応することも求められるため、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。これは、リスク管理チェックリストを使用した自主点検を中心とす

る取り組みで、その結果にもとづき、残留リスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。当社はビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行するため、ビジネスパートナー様との取引が適正に行われているかどうかの確認も重要です。このため、「発注者の請負の適正化のための自主点検」チェックリストを使用した自主点検を実施し、その結果にもとづき、懸念のある項目に対しては適正取引部会が責任者へのヒアリングを実施して具体的な懸念の内容を確認し、改善に向けたアドバイスや対応策の指示などを行っています。

■2024年度リスクマネジメント推進活動 2024年4月～2025年3月

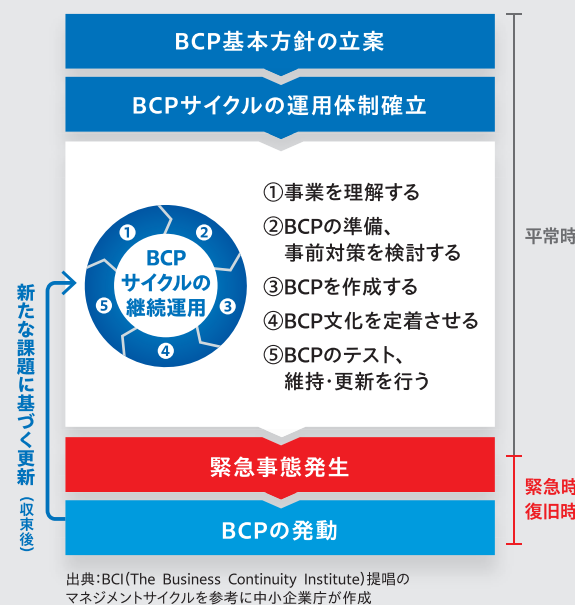


BCP(事業継続計画)に関する取り組み

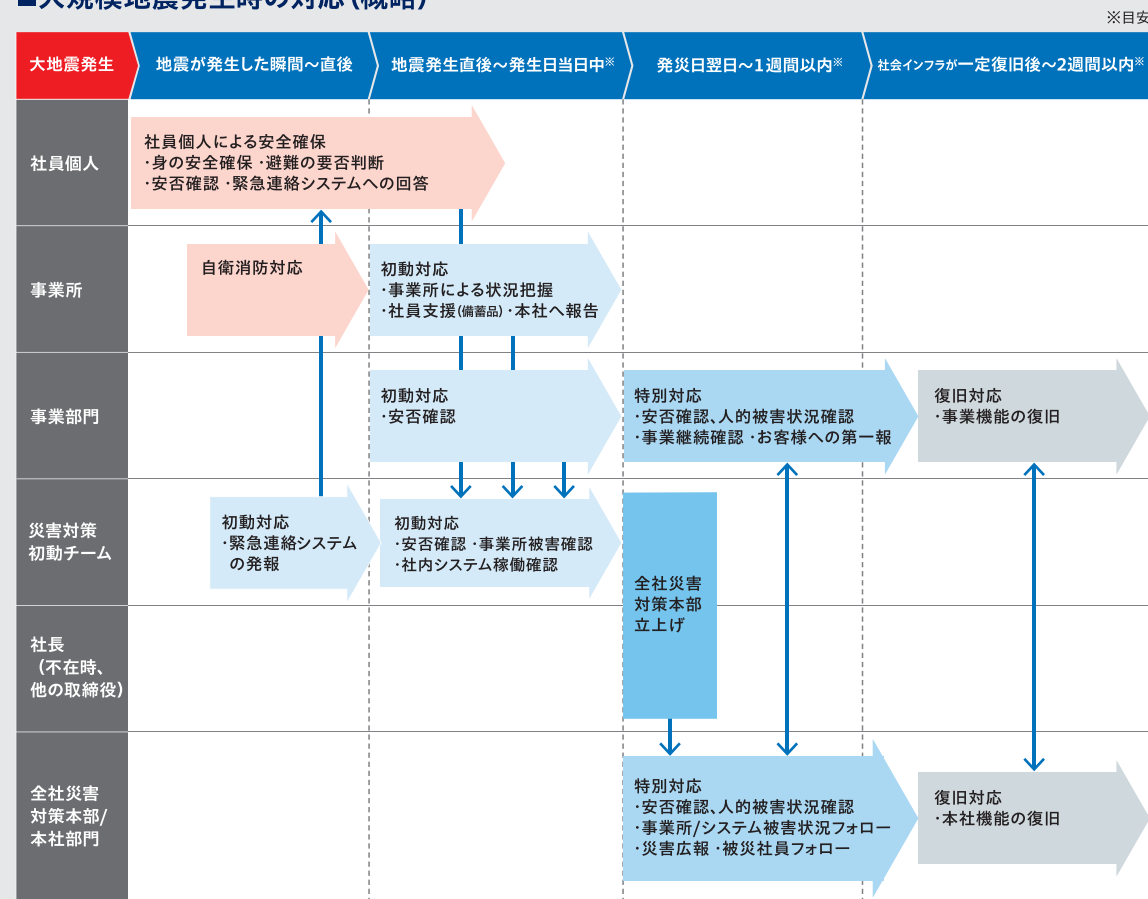
製造業であれば、仕入れや生産設備、物流などサプライチェーン全体を俯瞰した事業継続を考慮する必要がありますが、当社の場合、事業継続の要は人的リソースおよびITインフラであり、事業復旧には社員の安全確保と協力会社を含めた人的リソースの早期状況確認が最優先事項です。

当社のBCP文書は、官公庁が民間企業向けに自然災害に対応したBCP策定を促進するために作成した手引きやガイドなどを参考に策定しました。また、同業他社と情報交換を実施し、IT企業におけるBCPの範囲や想定リスクを規定しました。本BCPでは、自然災害のうち、大地震や風水害、感染症や伝染病の爆発的な流行(以下、パンデミック)をリスクとして特定し、自社事業所や社員などの被災時について、対応要領や手順を定めています。初動対応および特別対応(全社災害対策本部立ち上げからその活動)までを策定・展開しています。また、クラウドサービスを利用した緊急連絡システムを活用し、社員の安否確認や情報提供が素早く行える仕組みを整えています。イントラネットや外部掲示板システムを利用し、避難ルートや

備蓄品のリストを社員に公開し、事業所の被害状況を迅速に把握する手順も整えています。被災時に最優先に取り組むべき本社業務、お客様への災害広報対応や外部への支払いなどを重要業務として定め、プロセスを策定しています。



■大規模地震発生時の対応(概略)



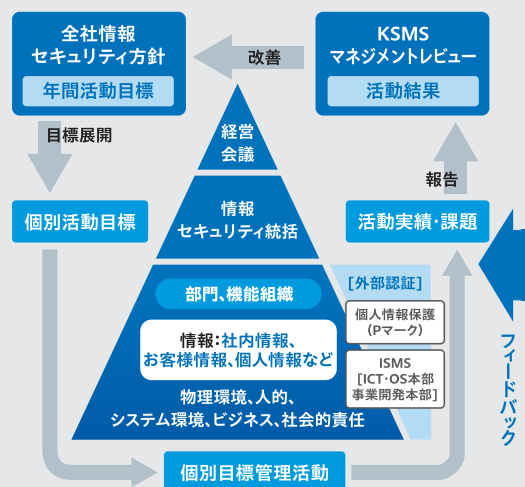
セキュリティ

コベルコシステム情報セキュリティマネジメントシステム KSMS:KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

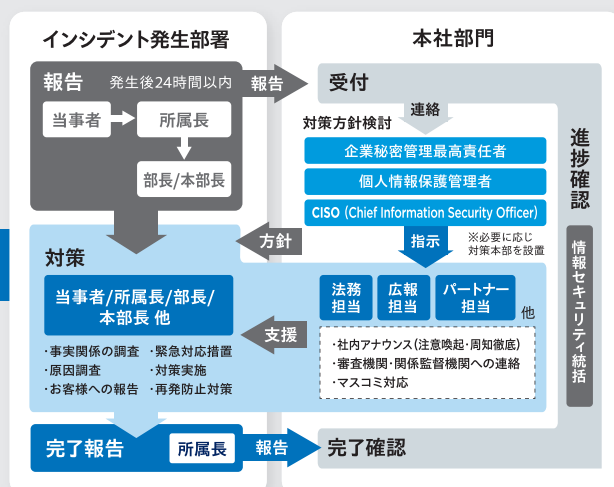
インターネットは、社会の経済活動に欠かせないインフラへ成長するとともに、個人情報の漏えい、詐欺、窃盗やテロなどが大きな社会問題となっています。情報システムを本業とする当社は、関連会社も含め、KSMSというセキュリティマネジメント体系を定めてセキュリティ活動を行っています。KSMSでは、経営幹部によるマネジ

メントレビューのもと、情報セキュリティポリシーの設定・見直し、および「物理環境」「システム環境」「人的」「ビジネス」「社会的責任」の各視点でセキュリティ活動のPDCAを回し、リスクの変化に適応したセキュリティ水準を維持しています。

■ KSMS



■ セキュリティ・インシデント対応体制



プロジェクトセキュリティプロセス

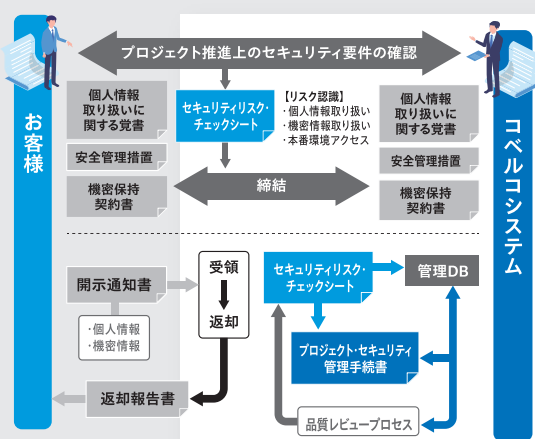
PSP:Project Security Process

当社は、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することが当社の使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。また、各種法令の準拠、海外の個人データの保護など、コンプライアンスに取り組んでいます。

情報セキュリティマネジメントシステム

お客様からお預かりする大切な情報資産を守るため、当社は2003年のハウジングサービス事業から始まり、現在はICT本部全体と事業開発本部(一部除く)で20年以上にわたりISMS(Information Security Management System)認証を取得しています。また、クライアント事業部アウトソーシング本部(一部除く)でも日本IBMグループの統一認証を取得しています。

■ プロジェクトセキュリティ対策概念図



個人情報保護の推進

お客様、社員の個人情報を適切に保護することは、当社の重要な責務です。当社はプライバシーマーク制度の付与事業者となった2000年以降、認証を継続しており、個人情報を適切に保護する措置を構築しています。また、毎年、全社員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、個人情報保護の理解を深めるとともに、意識の向上に努めています。

品質マネジメント

全社品質方針

お客様の持続的な成長と貢献のために、品質マネジメントシステムを継続的に改善し、高品質なサービスを提供する。

コベルコシステム品質マネジメントシステム

KQMS:KOBELCO SYSTEMS Quality Management System

KQMSは、2007年に当社独自の品質マネジメントシステムとして制定されました。全社品質方針のもと、品質目標管理とプロジェクト品質管理によってお客様の要求事項を満たし、お客様満足度の向上を促進すること

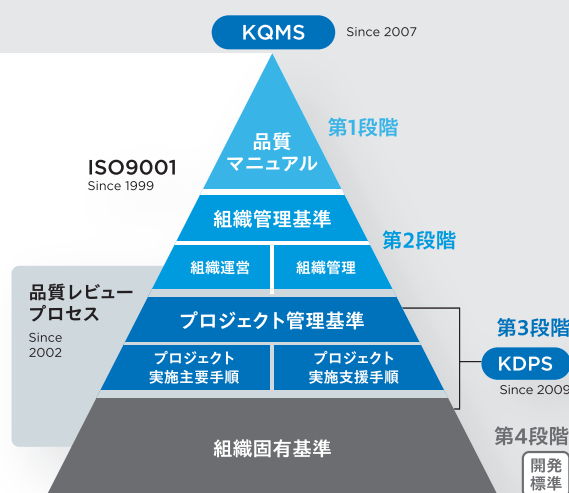
■ 品質マネジメント体系図

ISO9001:2015 認証

当社は、1999年にISO9001:1994の認証を取得後、適用範囲を拡大し、現在は次の組織がISO9001:2015の認証を取得しています。

- ・ソリューション事業部
- ・クライアント事業部エンタープライズ本部
- ・クライアント事業部アウトソーシング本部第4・5・6サービス部
- ・事業開発本部
- ・ICT本部
- ・営業本部

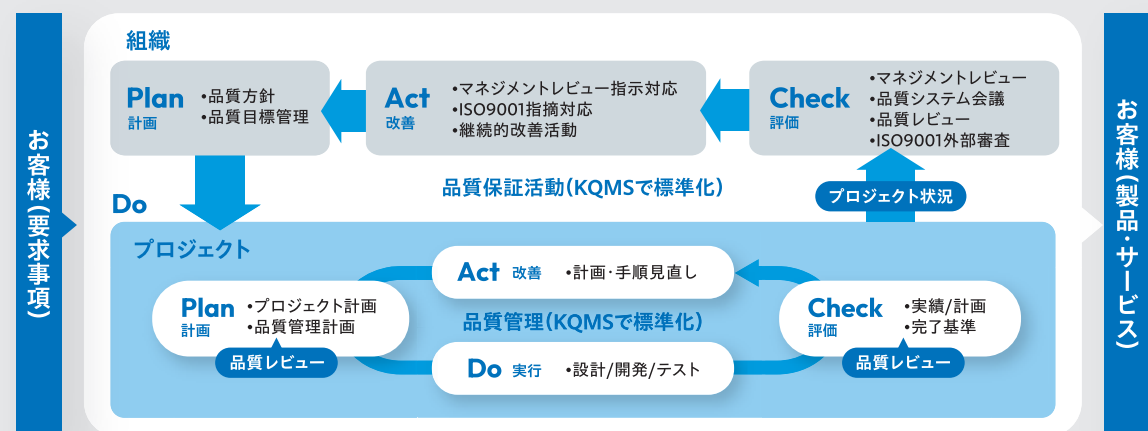
※認証取得時組織



品質マネジメント体制

当社は、CDO (Chief Delivery Officer) をKQMSの最高責任者に位置づけ、品質保証活動を推進しています。品質保証全般については、経営者参加のもと、月次マネジメントレビューにおいてプロジェクトの品質状況をフォローし、年2回のマネジメントレビューでは組織的な継続的改善活動のフォローとKQMSの有効性の検証を行っています。

■ 品質マネジメント体制



品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築がお客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、当社独自の品質レビュープロセスを実施しています。このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策の策定を行うため、訓練されたレビューアーにより実施されています。

内部統制

当社では、公正で透明性の高い企業であり続けるため、法令遵守だけでなく企業としての行動が高い倫理観にもとづいて遂行できるように、ハラスメント防止対策や内部通報制度(ホットライン)を整備するなどの内部統制の強化により、健全な組織風土の醸成に努めています。

ハラスメント防止への取り組み

当社はすべての労働者が互いに尊重し合える安全で快適な職場環境づくりのために、ハラスメント行為や人権侵害などは断じて許しません。またハラスメントの防止を徹底すべく、次の取り組みを行っています。

各種ハラスメント防止の推進体制の確立と窓口の機能化

相談・苦情を受け付けた場合は、当事者や関係者へのヒアリングなど、プライバシーを守りながら調査を実施します。調査結果をもとに状況の判断について審議を行い、適切な救済措置および当事者へのフォロー、規程にもとづく懲戒処分を実施しています。また同様の事象が発生しないように、発生した事実と対策について、関係者への周知を行い再発防止につなげます。法により会社で職場における防止が求められる各種ハラスメント以外に、取引先からの嫌がらせなどのカスタマーハラスメントについても対応しています。

ハラスメント研修

ハラスメントに関する正しい知識を習得するため、役員およびライン長をはじめとした各階層を対象にした定期的な研修を実施しています。研修では、職場で起こるハラスメントについて理解を深め、その防止に向けた取り組みを考える機会を提供しています。今後もこれらの研修を継続してハラスメントのない職場環境づくりに努めていきます。

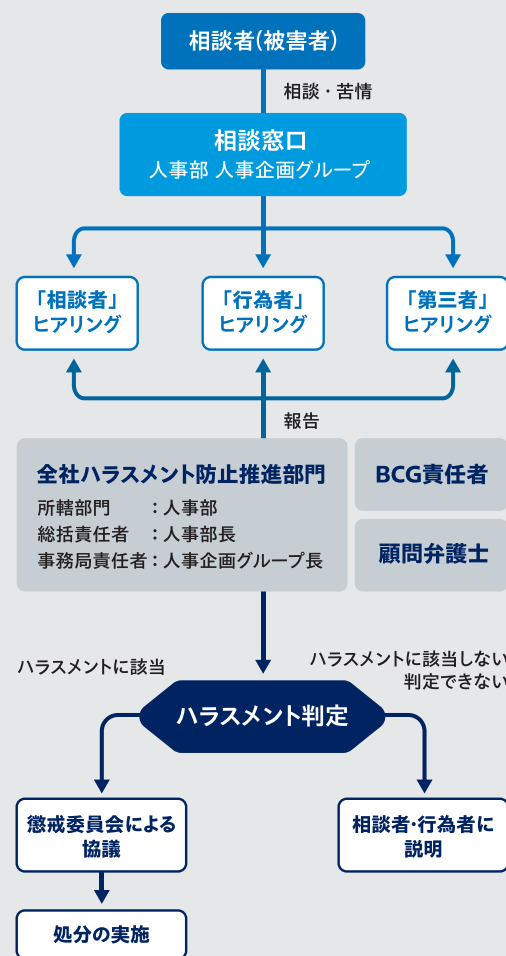
内部通報制度(ホットライン)

役員や従業員が企業倫理、および法令に違反する不正行為を発見した場合、または不正行為があると判断する合理的な理由がある場合、職制を通じることなく社内または会社の定める社外の受付窓口に対して直接連絡できるようにし、早期に事実および原因を把握し遅滞なく是正措置を講ずる取り組みを行っています。

対象者

内部通報制度の利用はすべての役員や従業員を対象としています。また、嘱託契約を締結する個人または労働者派遣契約にしたがい当社の指揮命

■各種ハラスメント防止の推進体制



令の下で働く派遣労働者も従業員に準じ利用できます。

通報者の保護

通報者の保護を図るため、通報行為を理由にする報復、仕返し、嫌がらせなどを禁止しています。これらに違反して、通報者に対して何らかの不利益な取り扱いを行い、または行わせることを命じた者、あるいは公益通報者保護法に定める通報者保護規定に違反する行為を行った者は処分されることがあります。また、周囲の役員や従業員は通報者が差別的な扱いを受けていることを知った場合はそれらを報告する義務があります。

外部からの評価

感謝状・アワード

2024年、当社は多くの感謝状やアワードをいただきました。これらの評価は、私たちの取り組みが、少しでもお客様やビジネスパートナー様の挑戦と成長を支えることができた証だと考えています。これからも、すべての人を大切に、信頼される“Trusted Partner”として、みなさまとともに実りある明日を築いていきます。

■ビジネスエンジニアリング様 mcframe Award 2024 最高賞「Partner of the Year」

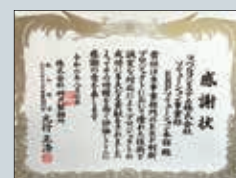
ビジネスエンジニアリング株式会社主催の「mcframe Award 2024」において最高賞である「Partner of the Year」を受賞しました。大型案件を複数獲得したことや当社独自のノウハウを活かしたテンプレートによりmcframeビジネスの価値向上を実現したこと、MCCP資格取得に積極的に取り組んだことなどが高く評価されました。



最高賞は今回が初受賞となりますが、過去にもExcellent Partner賞を8回、Project of the Year賞を2回受賞しており、信頼と実績を積み重ねてきています。

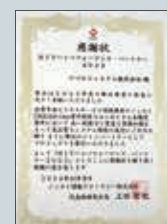
■神戸製鋼所様 感謝状・祝賀会

株式会社神戸製鋼所エンジニアリング事業部門様から基幹刷新プロジェクトで感謝状をいただきました。このプロジェクトは、神戸製鋼所様本社部門・エンジニアリング事業部門・電力事業部門の3事業部門それぞれ個別に利用していたSAPを、共通基盤を利用したSAPに刷新したもので、3事業部門が同時期に新環境へ移行したものです。5年にわたるプロジェクトにもかかわらず、オンスケジュール／オンコストで成功したことや神戸製鋼所様内で基幹システム刷新のトップランナーであるエンジニアリング事業部門様で成功できたことが高く評価されました。また、本社部門様向けのSAP刷新プロジェクトにおいても、祝賀会に招待いただきました。



■ニッセイ情報テクノロジー様 「NITハイパフォーマンス・パートナー2023」

ニッセイ情報テクノロジー株式会社様から、2023年度において顕著に貢献を果たしたパートナーとして当社が選出され、謝意を直接お伝えいただくとともに「NITハイパフォーマンス・パートナー2023」の感謝状をいただきました。2年連続の授与となります。



■ナブテスコ様 感謝状・盾



ナブテスコ株式会社様から、基幹システム刷新プロジェクトのサービスに伴い、感謝状と盾をいただきました。コロナ禍期間を含む2018年からの長期間かつ3部門横断の大規模なプロジェクトながら、密なコミュニケーションを通じて、お客様と一体となったワンチーム体制を構築しました。強固な協力関係が構築できたことがプロジェクトの成功につながったと高く評価されました。

■JSUG Award 2024 「ベストサポーター賞」 「プラチナサポーター継続賞」

ジャパンSAPユーザーグループ(JSUG)主催のJSUG Award 2024において「ベストサポーター賞」および「プラチナサポーター継続賞」を同時受賞しました。「ベストサポーター賞」は、SAPユーザーのJSUG活動において、年間を通して最も多大な貢献を行ったサポーター企業に贈られる賞であり、当社はサポーター企業約60社の中から選出されました。



▲ベストサポーター賞



▲プラチナサポーター継続賞